

第 53 回 CPD セミナー・公開講座・修習技術者支援セミナー・見学会(香川例会)報告

事業委員会
香川地区幹事
丸山 正



1. セミナーの概要

香川例会として高松市で開催した第 53 回の CPD セミナーについては、防災講演会を併催して実施しました。

例会としては、見学会も併催することとしていることから、セミナー及び公開講座の内容においては防災・減災の視点も持った講演とするとともに、見学会との繋がりを重視し、公開講座については同じ講演者の方に共通テーマを依頼し実施しました。8 日、9 日の通算で 59 名(内一般 17 名)の参加を得ました。

以下に実施内容について報告致します。

●平成 29 年 12 月 8 日(金)13:30~17:00

開催挨拶 公益社団法人日本技術士会四国本部長

古野本部長 主催者挨拶

【CPDセミナー】

演題:「生きるために・生き残るために整理収納でできること」

講師:ハウスキーピング協会 1 級認定講師 道久礼子氏

【公開講座】

演題:「四国の地質からみた日本列島の成り立ち」

講師:香川大学工学部教授・博物館長 寺林 優 氏

【修習技術者支援セミナー】

講師:公益社団法人日本技術士会四国本部

修習技術者支援委員会 竹内 克宣委員

●平成 29 年 12 月 9 日(土)9:00~12:00

【屋島見学会】

講師:香川大学工学部教授・博物館長 寺林 優 氏

2. 開会挨拶

古野本部長の開催挨拶は、H31 年度からの技術士試験制度変更について、更新制度につ

いては国際化と技術の研鑽のために登録更新と更新に必要な講習と CPD 取得について現在検討中であることが、今後、1~2 年以内に決定され、5 年の猶予期間を経て実施することが紹介されました。

また、平成 31 年度の技術士会全国大会については徳島で開催され平成 31 年 10 月 5 日~7 日の予定であることが紹介されました。

3. CPD セミナー

講演者の道久礼子氏は「かたづけ好き」が高じて、2004 年に収納サービス業を始められ、現在は、依頼者のご自宅に伺って、アドバイスやセミナーなどをされているとの自己紹介がありました。



写真1 講演される道久氏

その中で、自宅に伺うと、とにかく室内は危ない状況であり、地震がきたら小さい子供や老人にはリスクが大きい環境であることが確認されたとのことでした。

2015 年に防災士資格を取得するとともに香川大学四国防災教育センターでの危機管理特別プログラムを修了したことから防災の観点から収納という手法で考えるとわかりやすく取り組めるのではないかと考えるようになって

たとの事です。

整理収納を軸として防災・減災を考え、教育活動を実施する中で子供の頃からの防災教育が大切だとの思いから手作りのカルタを作成したことが紹介されました。

また、防災グッズの考え方（0次、1次、2次）や整理（機能と使い勝手）と整頓（見た目）の違いなど家族みんなでコミュニケーションをとり続けることにより、一緒に行動しながら家族への愛を持って取り組んで行くことが防災・減災へのアプローチとして大事だと締めくくられました。

4. 公開講座

講師の寺林先生からは地学を志したエピソードから始まり、アポロ宇宙船が持ち帰った月の石が大阪万博で公開された時に見学に行かれたこと等、身近に起きた出来事が紹介され、分かり易く説明が始まったのが印象的でした。

また、香川大学博物館長として博物館の貴重な所蔵品の紹介や小惑星探査機『はやぶさ』帰還カプセル展を開催した際には多くの来場者があったこと、香大の組織改編のお話がありました。

そして35億年前の生命体発見との繋がりから地質を調べていくことを前置きし、本題の講演が始まりました。

(1) 三波川帯は一つではない

従来、四万十帯との境界と考えられていた別子ユニット下位の変成岩は三波川変成岩とは明瞭に異なる高圧変成岩であり、その原岩は四万十帯の北帯相当である事が示されました。

(2) 屋島はいつから山になったか

屋島はカンカン石が出ないこと、国立公園であることから、地質調査が進んでいなかったことで、花崗岩の上に安山岩がどう積層されているか、という観点で調べると、北嶺は安山岩が4層、南嶺は溶岩流層が2層と推察

されるとの説明がありました。

(3) 香川用水は太古からあった

400万年前ころ吉野川、土器川が阿讃山地を横断して瀬戸内海側に流れていたが、100万年前ころ：吉野川、土器川は阿讃山地の南側の断層(中央構造線)に沿って、東に流れるようになったことが示されました。

(4) 瀬戸内海に津波は来ない？

1m深さのボーリング調査により、津波堆積物を調べることで、過去に発生した津波の規模を推定できる可能性があり、現在調査を実施していることが紹介されました。



写真2 講演される寺林氏

5. 12月9日 屋島巡検

セミナー翌日の12月9日(土)の集合時8:30頃からは穏やかな日差しがさし始め、一般参加の方4名、会員12名、寺林先生の総勢17名で屋島巡検を実施しました。



写真3 集合場所での説明

冒頭、寺林先生からは「北嶺を中心に巡検しますが、少し厳し目のコースも盛り込みた

いと思います。」とのお話があり皆さんは少し緊張した面持ちでスタートしました。

遊歩道の途中での板状節理の場所では、節理、片理、層理の違いについて説明がありました。

節理はマグマの収縮や圧力で生じた岩の割れ目のことを指すこと。片理は変成岩ができるときに、他の岩石などが層になって積み重なった面構造になったもので、片理面から薄く割れる性質を持つことが説明されました。

層理は堆積岩ができるときに堆積する物質の違いなどにより明瞭な面になったものを層理面という違いの説明がありました。

ここで、一般参加者から「変性岩とはどんな石ですか？」との質問がありました。

これに対して、「もともとあった岩石がその後の温度や圧力の条件下に長期間おかれると、鉱物組成や組織、化学組成等も変化しながら別の岩石に変わります。この変化の過程が変成作用で、これによって生じた岩石を変成岩と呼んでいます。」との回答がありました。



写真4 北嶺讃岐安山岩の説明

それから、北嶺の遊歩道を離れ、魚見台の下はかなり険しい道を進んでいきました。60～80m程下ったところに、岩盤洞窟がありました。北嶺に分布する層厚約 20mの火山礫凝灰岩および凝灰質砂岩は、江戸時代から石材として採掘され、凝灰岩層の上方には讃岐岩質安山岩が急崖をつくっているため、横穴を掘って採掘し、その穴場が洞窟となって残ったとのことでした。採掘は昭和初期まで行わ

れていたとのことでした。また、落ちていた石同士を叩いてみるとサヌカイトのような澄んだ音がする石がありました。これは組成であるマグネシウムと鉄の粗密に関係するとのことでした。

それから遊鶴亭展望台に到着し、お天気に恵まれたことから瀬戸内の多島美を展望できました。瀬戸内の島には、山頂に讃岐層群の安山岩をのせる島と、直島や大島は基盤の花崗岩だけからなる島があるとの説明がありました。

最後に集合と解散場所での南嶺駐車場へは全行程時間の3時間で到着し、記念写真の撮影を行い、2日間講義をして頂いた寺林先生への感謝の拍手で無事、屋島巡検（見学会）を終了することが出来ました。



写真5 参加者集合写真

6. おわりに

アンケート結果は、講演内容について概ね有意義であったとの評価が大勢であり一定の開催意義があったものと判断しています。また、屋島見学会においても一般参加の方にヒアリングを行い、「有意義であったし、また参加したい。」との回答を得ました。

今後も会員等の皆様の声が反映され、充実したセミナー、公開講座となるよう努めたいと考えています。また、学生、一般の方の参加についても、講演の内容や講師の人選、広報のあり方について更に検討して行きたいと考えています。